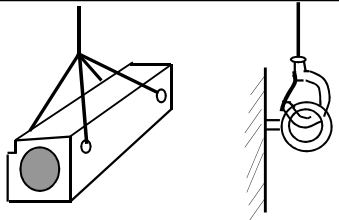
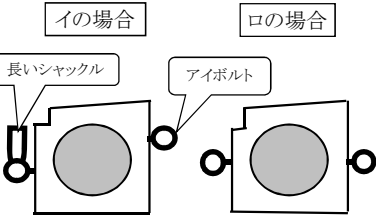

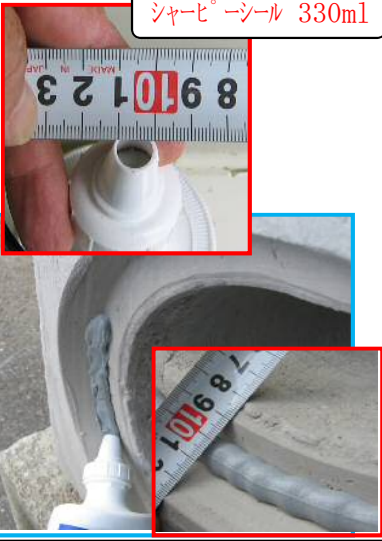




# アーボ箱形パイプの施工要領書

番号	項目	要領																																	
1	吊り方	<p><b>*用意して頂くもの</b> 外れ止めフック付きワイヤー 4本 (12mm以上×2.5m程度)</p> <p>① 四点吊りをお願いします。</p> <p>② 使用吊具 ・アイボルト(16mm) 4ヶ 〔下記のイの場合、長シャックル付アイボルトを用意致します〕</p> <p>③ アイボルトの取付け高さは、製造機種の違いから、下記のようにイ、ロの二通りがあります。それぞれの吊り方を参考にして下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イの場合・・・歩道側のアイボルトにのみ長いシャックルを付け車道側はアイボルトに直接フックを掛けて吊る。</li> <li>・ロの場合・・・歩道側、車道側とも、アイボルトに直接フックを掛けて吊る。</li> </ul> <p>④ 箱形底部の泥をほうき等で、払い落とす。</p> <p>⑤ 布設後、吊インサート穴は、錆び防止のため、ビニールキャップでふたをして下さい。</p>																																	
																																			
2-1	直線部	<p><b>*止水材の名称</b> シャープシーラー P [油性コーキング材]</p> <p>① コーキング材を、ソケット側のあご部の全周に、幅10mm程で塗りつけて下さい。</p> <p>② 目地が開く場合はコーキング材を多めに付けて下さい。</p> <p>③ 目地の開きは、通常1～2mm程度で、最大7～8mmを限度とします。それ以上の開きが見込まれる場合は、カーブ材のご使用をご検討下さい。</p> <p style="text-align: center;">(コーキング材1本当たり 塗り付け目安)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径</th> <th colspan="2">箱形使用本数(本)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">直線部</th> </tr> <tr> <th></th> <th>330ml</th> <th>700ml</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 150</td><td>8本</td><td>16本</td></tr> <tr><td>φ 200</td><td>6本</td><td>12本</td></tr> <tr><td>φ 250</td><td>6本</td><td>12本</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>3本</td><td>6本</td></tr> <tr><td>φ 400</td><td>2.5本</td><td>4.5本</td></tr> <tr><td>φ 450</td><td>2本</td><td>4本</td></tr> <tr><td>φ 500</td><td>1.5本</td><td>3本</td></tr> <tr><td>φ 600</td><td>1本</td><td>2本</td></tr> </tbody> </table>	呼び径	箱形使用本数(本)		直線部			330ml	700ml	φ 150	8本	16本	φ 200	6本	12本	φ 250	6本	12本	φ 300	3本	6本	φ 400	2.5本	4.5本	φ 450	2本	4本	φ 500	1.5本	3本	φ 600	1本	2本	<p>シャープシーラー 700ml</p>  <p>シャープシーラー 330ml</p> 
		呼び径		箱形使用本数(本)																															
			直線部																																
	330ml	700ml																																	
φ 150	8本	16本																																	
φ 200	6本	12本																																	
φ 250	6本	12本																																	
φ 300	3本	6本																																	
φ 400	2.5本	4.5本																																	
φ 450	2本	4本																																	
φ 500	1.5本	3本																																	
φ 600	1本	2本																																	
2-2	曲線部 (交差点部)	<p><b>*止水材の名称</b> オプシーラー [合成ゴム発泡体シール材] (15×20×1000)</p> <p style="text-align: center;">(1接合当りに必要な シール材の本数)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径</th> <th>1ヶ所当たりの必要本数</th> </tr> <tr> <th>曲線部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>φ 150</td><td>-</td></tr> <tr><td>φ 200</td><td>1</td></tr> <tr><td>φ 250</td><td>-</td></tr> <tr><td>φ 300</td><td>1</td></tr> <tr><td>φ 400</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>φ 450</td><td>1.5</td></tr> <tr><td>φ 500</td><td>2</td></tr> <tr><td>φ 600</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	呼び径	1ヶ所当たりの必要本数	曲線部	φ 150	-	φ 200	1	φ 250	-	φ 300	1	φ 400	1.5	φ 450	1.5	φ 500	2	φ 600	2	<p>オプシーラー</p>  <p>両面テープの剥離紙を剥がしソケット端面に貼付ける</p> 													
		呼び径		1ヶ所当たりの必要本数																															
曲線部																																			
φ 150	-																																		
φ 200	1																																		
φ 250	-																																		
φ 300	1																																		
φ 400	1.5																																		
φ 450	1.5																																		
φ 500	2																																		
φ 600	2																																		

3-1	<h3>布設 (コンクリート基礎)</h3>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 丁張りは、車道側の天端に合わせてかけて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。</li> <li>② 基礎コンクリートの上に敷きモルタルを敷き、箱形を布設します。</li> <li>③ 接合時に、敷きモルタルがかまないようにご注意下さい。</li> <li>④ 高さの微調整を樹脂製キャンパで行った後、箱形底部にすき間ができないようモルタルをつめ込んで下さい。</li> <li>⑤ 目地の開きは通常1～2mm程度で、カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施して下さい。</li> <li>⑥ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。上流側・下流側どちらからでも施工できます。</li> </ol>	
3-2	<h3>布設 (碎石基礎)</h3>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 丁張りは、車道側の天端に合わせてかけて下さい。又、ヌキ板等で作った水平定規を使用すると便利です。</li> <li>② 碎石基礎の場合は転圧後、モルタルで高さの微調整を行って下さい。 *別売のプレートを、接合部に使用しますと、施工がスムーズに行えます。</li> <li>③ 目地の開きは通常1～2mm程度で、カーブ部等で目地が大きく開く場合にはモルタル目地を施して下さい。</li> <li>④ 箱形は、右車線用・左車線用の区別がありませんので、反対車線ではオス・メスが逆になります。上流側・下流側どちらからでも施工できます。</li> </ol>	<p>*プレートは別売となります</p>
4	<h3>埋め戻し</h3>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 埋戻しは、沈下防止のためよく締め固めて下さい。</li> <li>② 表層の舗装時には、ローラーが箱形の縁辺に乗らないように少し高めに施して下さい。</li> </ol>	
5	<h3>目地込み</h3>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 雑草防止のため、右の図のように歩車境ブロックと箱形パイプの隙間は目地込み(モルタルの充填)をして下さい。</li> <li>② 特にJS形の場合は、モルタルが開口部に落下、付着する可能性がありますので、養生テープ等のご使用をお勧め致します。</li> </ol>	